

インタビュー

日本表面化学株式会社



日本表面化学株式会社 プロフィール

称 号：日本表面化学株式会社

所在地：東京都新宿区荒木町 20 番 21

電話（代表）：03-5367-6381

※お問合せは R&D センター（0467-83-4625）へご連絡ください。

HP：<http://www.jasco-kk.co.jp>

設 立：1968 年（昭和 43 年）10 月 1 日

代表取締役社長：石田 俊一

Q1. 会社の概要についてお聞かせ下さい。

日本表面化学株式会社は、1968 年創業以来、時代のニーズに先駆けた表面処理における最先端技術の研究開発に努めております。表面処理技術は、自動車、電気製品をはじめ精密機器、建材、ガラス、プラスチックなど多様な工業製品において重要な役割を果たしています。

弊社は、この分野における研究開発に弛まぬ努力を続け、とりわけ防錆技術の中核である亜鉛めっき関連処理剤においては、ご利用いただいた方々からの信頼も厚く、業界でもトップクラスの評価をいただいております。

これからも様々な要望に応えられる最先端技術と柔軟性に磨きをかけ、多くのお客様やその先のエンドユーザーの心を満たせるよう精進をつづけて参ります。

Q2. 業務内容についてお聞かせ下さい。

日本表面化学株式会社は、表面処理剤の開発、製造、販売ならびに顧客サポートを行っております。

以下、6つの技術で製品をラインナップしています。

◆着色技術

各種金属の黒染め、ブロンズ着色、染色

◆洗浄技術

各種金属、ガラス、プラスチックの脱脂、除錆、異物除去

◆研磨技術

各種金属の光沢、梨地、バリ取りの化学研磨と電解研磨

◆水処理技術

金属類を含む排水処理

◆防錆技術

亜鉛／亜鉛合金めっきシステム

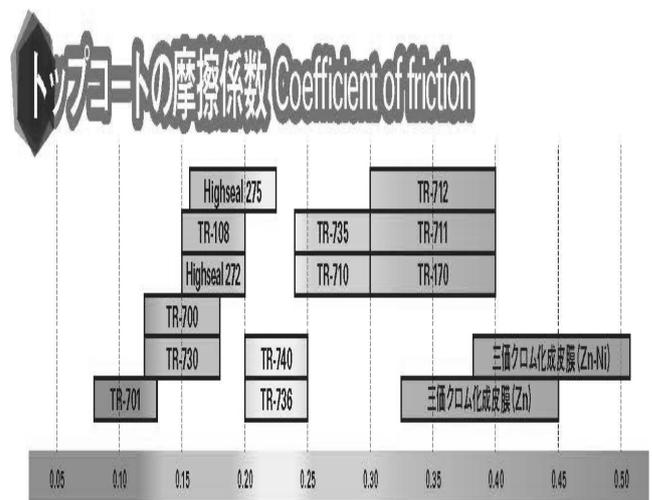
- ・亜鉛めっき（ハイパーズンク・アシッドズンク）
- ・亜鉛-鉄合金めっき（ストロンズンク）
- ・亜鉛-ニッケル合金めっき（ストロン Ni ズンク、ハイ Ni ズンク、アシッド Ni ズンク）
- ・スズ亜鉛合金めっき（Sn ズンク）

化成皮膜

- ・三価クロム化成皮膜処理（トライナーシリーズ）
- ・クロムフリー化成皮膜処理

トップコート

- ・TR-700 シリーズ、TR-108
- ・フィニガードシリーズ、ハイシールシリーズ



接触腐食試験 (アルミニウム-亜鉛めっき)

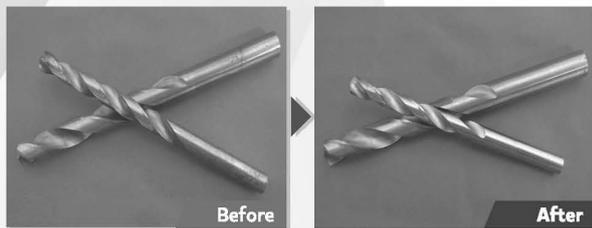
アルミニウム材に亜鉛めっきボルト・ナットを締め込んだの塩水噴霧試験(168時間後)

アルミニウム		亜鉛めっき	亜鉛めっきボルト	
			ボルトなし	三価クロム 化成皮膜 + TR-108
A6061P材	表面処理なし			
	三価クロム 化成皮膜			
	三価クロム 化成皮膜 + TR-108			

◆はく離技術

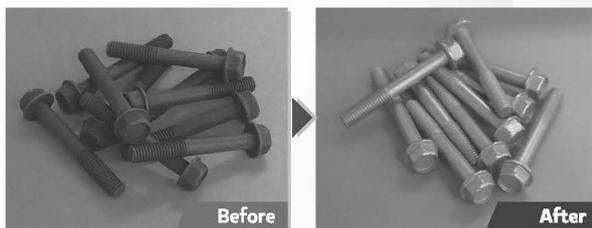
■ハイス鋼の窒化チタン皮膜はく離/チタニック94

Stripping Titanium Nitride (High-speed Steel)/Titanic94

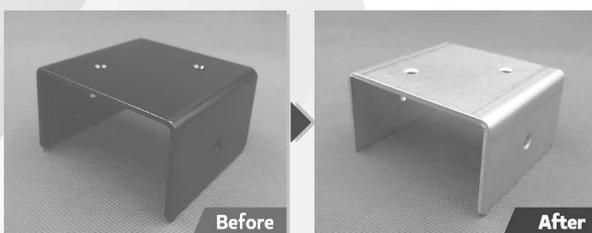


■リン酸塩皮膜の除去/ボンデピール690

Stripping phosphate coating / Bondepeel 690



■鉄鋼上電着塗装品のはく離:ペイントピール670A



6時間浸漬

■亜鉛ダイキャスト上塗装品のはく離:ペイントピール670C



6時間浸漬

Q3. 現在危惧していることや今後の展望についてお聞かせ下さい。

最近、新素材およびマルチマテリアル化した部品の出現で表面処理におけるビジネスチャンスが多分にあります。一方、それに使用される表面処理剤は、環境規制の影響を受けやすく表面処理剤に使用する化学物質が限定されます。さらに表面処理剤のコストが安価であることも同時に要求されます。このような状況下で開発する表面処理剤および表面処理方法には、発明(新規性や進歩性が見出されるもの)に値するものが多いので積極的に国内外へ特許を出願しています。もちろん、試行錯誤して失敗しながら得られたノウハウは、貪欲に蓄積していきます。

ところが、“発明”に気づかないで開発業務に携わっている人がなんと多いことに残念さを感じております。特許取得の効果は、開発者のモチベーションを向上させるばかりかビジネスを優位に進めることができます。

これからの開発業務への取り組み方は、弊社の課題です。

Q4. 学会との係わりについてお聞かせ下さい。

昨年の春、関東学院大学の渡邊先生と知り合ったことをきっかけに本学会のご紹介を受けまして入会いたしました。弊社の入会目的は、本業を支えるための情報入手と会員様との接点を持つ場の二つですが、今後、弊社の若手社員が学会発表や本誌投稿で参加できる機会を与えたいと考えております。

Q5. 学会に期待することについてお聞かせ下さい。

弊社も複数の学会へ入会させていただいていますが、学会という性質上、縦割りの感じが否めません。

けれども、本学会は、関連する複数の学会に対して横断的な位置付けにあると思います。是非、この強みを生かした“特集”の企画に期待しております。

お忙しい中インタビューに応じて頂きました。期して感謝の意を表します。

(日本材料科学会 編集委員長 渡邊充広)